

平成 27 年度のごみ排出量等について

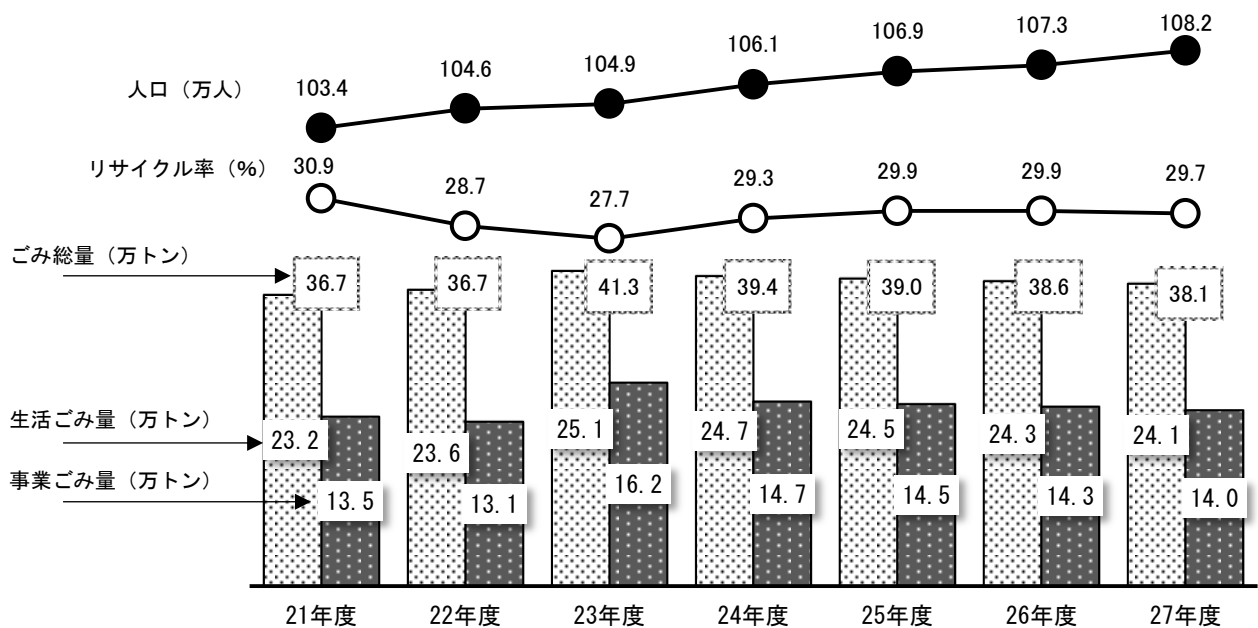
1 ごみ処理基本計画に定める目標値に対するごみ排出実績

(単位：トン)

	26 年度	27 年度	前年度 差異	32 年度 目標	27 年度と 目標との差異
人口 (万人)	107.3	108.2	0.9	108.8	0.6
ごみ総量	385,863	381,036	△4,827	360,000	△21,036
生活ごみ	242,958	240,555	△2,403	238,000	△2,555
家庭ごみ	191,381	188,611	△2,770	177,000	△11,611
家庭ごみ 1 人 1 日 (g/人日)	489	476	△13	450	△26
資源物 (※)	47,775	47,926	151	58,000	10,074
粗大ごみなど	3,802	4,018	216	3,000	△1,018
事業ごみ	142,905	140,481	△2,424	122,000	△18,481
リサイクル量	144,104	140,886	△3,218	165,000	24,114
本市リサイクル量	47,250	47,164	△86	56,000	8,836
民間リサイクル量	96,854	93,722	△3,132	109,000	15,278
リサイクル率 (%)	29.9	29.7	△0.2	35	5.3
燃やすごみの量	333,424	329,294	△4,130	305,000	△24,294

※資源物：紙類，缶・びん・ペットボトル等，プラスチック製容器包装の合計

2 ごみ量・リサイクル率の推移



3 家庭ごみに含まれる資源物・生ごみの割合の推移

(単位：%)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
資源化できるもの	38.3	43.8	43.8	44.0	47.1	48.1	42.0
紙類 計	25.2	30.8	29.8	28.8	30.8	32.0	27.3
新聞紙	3.1	5.0	4.5	4.2	6.0	5.5	4.0
段ボール・紙パック	1.9	2.5	1.8	2.4	1.9	2.2	2.6
雑誌	2.3	5.2	5.4	5.3	4.7	7.7	3.5
雑がみ	17.9	18.1	18.1	16.9	18.2	16.6	17.2
プラスチック製容器包装	8.4	8.2	7.9	8.6	10.1	10.5	9.3
布類・缶びん等	4.7	4.8	6.1	6.6	6.2	5.6	5.4
生ごみ	41.8	34.6	34.6	35.3	32.6	31.3	35.0
資源化できないもの	19.9	21.6	21.6	20.7	20.3	20.6	23.0

4 考察

- ☞ 平成27年度の生活ごみは、前年度比で2,400トン減少したことから、26年度から27年度にかけて実施した「緊急分別宣言」キャンペーンによる効果が一定程度あったと考えられる。しかし、ごみ処理基本計画に掲げる目標達成に向けて、品目別では、家庭ごみが約1.2万トンの減量、資源物が約1万トンの増量が必要となっており、家庭ごみに混入している資源物の分別を進めるなど、更なる取り組みの推進が必要である。
- ☞ 事業ごみは、総量では生活ごみ同様、前年度比で2,400トン減少したものの、目標達成にはさらに約1.8万トンの減量が必要。そのためには、リサイクルできる紙類や産業廃棄物等の本市処理施設への持ち込みが禁止されている品目について、排出事業者に対して排出ルールの徹底を図るなど、減量・分別推進の取り組みを加速させる必要がある。
- ☞ 民間リサイクル量が3,100トン減少し、リサイクル率も前年度比0.2ポイント減の29.7%となった。主な原因は、事業系紙類のリサイクル量の減少であり、可燃ごみに混入している紙類の分別を進める取り組みが必要である。